

西武文理大学
平成22年度自己評価報告書

社会連携

平成23年5月
西武文理大学

【基準 10 社会連携】

10-1 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること。

(1) 10-1の事実の説明(現状)

10-1-① 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされているか。

＜大学施設の開放＞

- ・ 本学は一級河川「入間川」を臨む狭山市柏原に在り、住宅街に隣接する広大なキャンパスは楠などを始めとした立木がならぶ自然に恵まれている。開放的なキャンパスでは地域住民が散策する姿も見られる。
- ・ 教室等に関しては、日本赤十字社埼玉県支部による救急法救急員養成講習の一般公開会場として2月に開放しており、狭山市内唯一の会場として機能している。また、本学2号館の教室を年3回、日本商工会議所簿記検定試験の狭山商工会議所の公開試験会場としている。また、狭山市の事業「狭山シニア・コミュニティ・カレッジ」のため、教室を提供した。
- ・ 平成22(2010)年度には狭山市政策企画課の事業である「(仮称)狭山元気大学試行コース・協働サポーター学科・健康づくりサポーター養成コース」の会場として1号館教室およびアリーナ、オリーブ館の貸出を行った。
- ・ 平成21(2009)年度および平成22(2010)年度には狭山市の市民活動団体「青空の会」の新春研修会が本学教室において開催され、初回は看護学部教員、2回目となる平成22(2010)年度はサービス経営学部教員が講演を行った。
- ・ 狭山市教育委員会と「ターゲットバードゴルフ場」開放の覚書を取り交している。
- ・ 平成23(2011)年度より、狭山市が主催し月1回程度開催される育児支援事業「ワイワイ広場」にグラウンドを提供する。

＜聴講生および科目等履修生制度＞

- ・ 大学卒業と同等以上の学力を有する方に向けての聴講生制度、高校卒業と同等以上の学力を有する方に向けての科目等履修生制度を導入している。

＜リカレント教育＞

- ・ 平成21(2009)年度から埼玉県高齢介護課の事業である「大学によるリカレント教育」事業に参加し、サービス経営学部が受講生の受入を行った。

＜公開講座の開催＞

- ・ 地域交流委員会により本学が主催し、狭山市教育委員会の後援を得た「生活お役立ち公開講座」を、近隣市民を対象として平成17(2005)年度から開催している。近隣の商店や地元自治会に案内の配布協力を得て周知を行った。平成22(2010)年度は「新しいライフスタイルの発見」をテーマに本学教員が講師を担当し、「新聞記者から見たこれからのメディアとの付き合い方」、「エコツーリズムのすすめ」の2回の講座を開催した。
- ・ 埼玉県西部18大学が連携する「彩の国大学コンソーシアム」の主催の、高校生以上の市民を対象とする連続公開講座「さいたま遊学～知的、快適生活のススメ～」に参画している。平成22(2010)年度には「童謡詩人金子みすゞの詩とこころ」

の講演が川越市の会場で行われた。

- ・平成 22 (2010) 年度には本学教員をコーチとする「バスケットボールクリニック」を、高校 3 年生及び既卒者を対象に、アリーナにおいて、2 日間にわたり実施した。
- ・平成 21 (2009) 年度から本学を会場に、本学教員 (音楽家) がコーディネートと合唱指導を担当する「ハロー♪楽しく歌う会」を年 6 回開催している。毎回 30 名程度の参加を得ている。
- ・帝国ホテルのレストランを会場に、本学教員 (ホテル経営論) がコーディネートを担当する「テーブルマナー教室」を年 1 回開催している。

表 10-1-1 各公開講座等の講座回数および参加人数 (平成 22(2010)年度実績)

講座名	講師	開催日	共催者名 (公共団体・企業等の別)	受講者数
生活お役立ち公開講座				
新聞記者から見たこれからのメディアとの付き合い方	本学教授	7 月 3 日	本学主催	14 人 (外部)
エコツーリズムのすすめ	本学教授	7 月 17 日	本学主催	19 人 (外部)
彩の国大学コンソーシアム公開講座				
童謡詩人金子みすゞの詩とこころ	本学教授	9 月 22 日	彩の国大学コンソーシアム	87 人
学園祭特別講演				
枯葉剤被害者として生まれ、父親として生きる ベト氏とドク氏の分離手術の 周辺で看護が果たした役割	ゲン・ドク氏 ゲン・チ・ホン・タン 医師	11 月 6 日	本学主催	180 人
二人のカリスマが語る日本人 の暮らしと文化とおもてなし	吉村葉子氏 (エッセイスト) 澤 功氏 (澤の屋旅館)	11 月 7 日	本学主催	約 100 人

<学園祭>

- ・学園祭 (ホスピタル) 開催中には、平成 17 (2005) 年度よりサービス経営学部地域交流委員会が各界よりゲストを招いて特別講演を開催し、近隣市民に公開している (表 10-1-1)。平成 22 (2010) 年度にはエッセイスト吉村葉子氏と、澤の屋旅館館主で観光庁認定「観光カリスマ」である



図10-1-1 結婚式サービスの提供

澤功氏を迎えたシンポジウムを開催したほか、看護学部国際交流委員会が結合双生児の分離手術で著名なグエン・ドク氏とその担当医をベトナムから招聘して特別講演を開催し、地域から多くの聴衆を得た。

- ・ ホスピタル開催中のキャンパスにおいて、学生プロデュースによる結婚式を開学以来 10 組行ってきた。式を挙げて頂く新郎新婦は、地域の方々を中心に、公募により募集している（図 10-1-1）。
- ・ 平成 22（2010）年度には「ハロー♪楽しく歌う会」の参加者である近隣市民の有志が、本学教員のコーディネートのもと学園祭のステージで合唱発表会を行い学生との交流を深めた。

<図書館>

- ・ 本学図書館は埼玉県大学・短期大学図書館協議会に加盟している。同協議会は「共同利用券」を発行しており、県内加盟校の学生は相互に加盟館を利用することができる。

<寄付講座の公開>

- ・ 平成 20(2008)年度前期に初めて受け入れた社団法人日本フードサービス協会の寄付講座「フードサービス論」の講義について、一般からの聴講者にも公開している。

（2）10-1の自己評価

- ・ 前回自己点検評価の際に「改善・向上方策」として表明した諸点に即して述べる。
 （課題1）聴講生や科目等履修生制度は、本学の教育内容の周知理解を進める上で非常に重要な位置を占めるものであり、一層の周知活動を行わなければならない。
 （評価1）新規事業として埼玉県のリカレント教育事業による受入が開始されたものの、聴講生や科目等履修生制度の周知に関して本学としては主体的な活動が行われておらず、改善を要する。
 （課題2）公開講座の内容は、おおむね好評であり継続した開講を行う。しかし、生涯学習の要望が年々増えてきている中で、講座の開講回数ならびに内容の見直しも積極的に行い、改善を重ねる必要がある。加えて、講座内容をまとめた小冊子の発行などにより、講座に参加した方へのフォローならびに講座内容の永続的な保存、参加出来なかった方への資料提供などを心がけ、より多くの方に本学教育資源の提供を進めることを目指す。
 （評価2）公開講座については地域交流委員会の主催により継続した開講が行われてきている。本学独自の公開講座の取組に加え、平成 22（2010）年度からは「狭山元気大学」の監修および講義を担当したことで生涯学習の機会を地域に提供することができ、かつ受講生からのフィードバックを得る仕組ができたことは評価できる。小冊子の発行は実現できていない。講座参加者へのフォロー等について配慮が求められる。
 （その他の評価）
 ・ 大学施設の開放については、中学・高校が同じ敷地内にあるという制約を抱えながらも、徐々に拡大してきていることは評価できる。
 ・ 看護学部の設置により、地域貢献が質量ともに充実した。

- ・ 公開講座等は、小規模大学にあっては十分な開催回数であると評価できる。また、内容に関しても本学の専門内容を反映したものであると言え、地域や市民の方々からおおむね好評を得ている。
- ・ 学生の地域への積極的関与は、地域の住民からも大きな評価を得ている。

(3) 10-1の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 公開講座や近隣市民を招いた各種教室は一定数の参加者を得ているが、一方で参加者の増加までには至っていない。参加者へのフォローの方策も含め、開催情報を提供する方法・対象等を再検討する。また、取組の評価・改善等を図り参加者の満足度向上に努める。
- ・ 施設の開放に関しては、完成年が近づき学生数が増加している看護学部の状況等も加味しながら、教室やアリーナ等はもとより広大な敷地を持つキャンパスの特性を活かした協力方法を模索する。

10-2 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されていること。

(1) 10-2の事実の説明（現状）

10-2-① 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されているか。 ＜企業等との連携＞

- ・ インターンシップは、本学の特徴的カリキュラムの1つで、開学以来継続している。平成22(2010)年度においても、3年次の夏季休業中ならびに1年次の春季休業中の2回の学生派遣を行った。インターンシップ先は、毎年新規での企業開拓を行なうとともに、長期にわたる企業とも継続した良好な関係を構築している。学生による報告会を毎年都内で催すことを通して成果を企業に還元するとともに、求められる人材像に関する意見交換を行っている。
- ・ 健康福祉マネジメント学科では社会福祉士等の実習を行い、2月には実習先施設を招いた報告会を開催し、学生の成果発表と施設側からのフィードバックの機会を設けて相互の理解と関係の強化に努めている。
- ・ 平成19(2007)年7月に埼玉りそな銀行と、12月には地元の武蔵野銀行と、それぞれ産学連携協定を締結した。いずれも、ホスピタリティ・おもてなし・サービスに関して本学が有する知見を銀行の窓口や取引先企業において活用することを志向している。
- ・ 平成20(2008)年度からは埼玉りそな銀行が主催する「産学官金連携セミナー」、平成22(2010)年度からは狭山商工会議所他が主催する「埼玉県西部地域産業技術展示交流会」、青梅信用金庫主催「あおしんビジネスマッチング大会」に就職課を中心として参加し、地域企業に本学の教育内容や専門内容を発表し、情報交換を行った。
- ・ 平成17(2006)年度から「埼玉県西部地域雇用協議会」に参加し、近隣4大学連携にて埼玉県内を中心とした企業との連携を強化している。入間市、狭山市、飯能市など行政機関やそれぞれの市の商工会議所、青年会議所などの後援を得ている。そ

それぞれの大学教育内容の理解推進と、適材の斡旋などを含めた活動をしている。

- ・平成 22 (2010) 年度の 2 月には、文部科学省「学生支援推進プログラム」の補助により、埼玉県西部所在企業の人事担当者を学内に迎えての「合同企業説明会」を本学の 4 年生未内定者を対象に開催した。

<特命教授の会・ゲスト講話>

- ・本学が標榜するホスピタリティ教育と、「豊かな人間性を持つ実践的で柔軟な職業人の育成」という教育方針に賛同を得られた企業の経営者や各分野の第一人者を、特命教授として任命している。大学紹介や講演、情報交換等を目的とした「特命教授の会」を年 2 回開催し、相互理解を深めている。また特命教授の中から「キャリア開発」の授業におけるゲスト講話の講師を担当してもらい、学生のキャリア開発に資する機会の提供に協力を得ている。平成 22 (2010) 年度は、4 回のゲスト講話を開催した。

<文部科学省「産学連携による実践型人材育成事業」>

- ・平成 19 (2007) 年度に採択された文部科学省委託事業「サービス・イノベーション人材育成推進プログラム」の取組を通じ、企業取材に基づく教材の作成を行った。サービス産業の革新を担う人材育成プログラムを産学連携により開発するものであり、平成 21 年度に終了した。作成された教材はサービス産業の中小企業を中心に主題を求めてあり、目白大学等の他大学や長野県観光課等の外部機関において使用されている。

<サービス・ラーニングの取組>

- ・サービス経営学部の選択科目「サービス・ラーニング」では、プロジェクトの成功を目指す協調型学習をテーマに多様な企業の協力を得て実施されている。平成 22 (2010) 年度には、第 23 回東京映画祭と関連のイベントに 24 名の学生がインターンの運営スタッフとして参加した。また、ブライダルの授業では茶道および華道の団体から協力を得て、講師による実践指導が行われた。

<寄付講座の受入>

- ・平成 20 (2008) 年度には本学として初めて、社団法人日本フードサービス協会寄付講座の受入を行っている。3・4 年生対象「フードサービス論」の授業において、外食産業経営者による特別講義の提供を受けることになった。本学園は調理師専門学校にルーツを持っており、サービス経営学科においても外食産業に関する教育研究活動を一貫して実施していることから、非常に意義深い講座となっている。

<看護学部の実習施設>

- ・看護学部では学部が開設された平成 21 (2009) 年度から、近隣の医療機関や育児施設、学校などを中心に多くの施設から学生の実習受入先として協力を得ている。平成 22 (2010) 年度は、「基礎看護実習」「看護援助実習」など 1・2 年生が対象の実習を行った。加えて実習前の連絡会と実習後の報告会により、協力施設と密接に意思疎通を図る機会を設けている。

<他大学との連携>

- ・本学は「彩の国大学コンソーシアム」に加盟している。埼玉県西部に位置する 18 大学の連携であり、9 大学との単位互換ができる。単位互換先としては他に放送大

学がある。

- ・ 海外の大学での研修としてオーストラリアにあるクイーンズランド大学での「海外フィールドワーク」を毎年夏季休業中に開催している。平成 22（2010）年度には、看護学部生が初めて参加した。現地では英語のレッスンに加えサービス経営学部生はホテル、看護学部生は医療機関の見学を行うなど見聞を広めた。帰国後には、学園祭で研修報告を目的とした展示を行った。
- ・ 平成 19(2007)年 11 月にハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジと派遣留学協定を締結し、平成 21（2009）年度に最初の派遣留学を行った。

（２） 10-2 の自己評価

- ・ 前回自己点検評価の際に「改善・向上方策」として表明した諸点に即して述べる。
 - （課題 1）平成 19（2007）年度に締結された銀行との産学連携を更に多いものとするため、今後両者間の意思疎通や人的交流が必要である。
 - （評価 1）埼玉りそな銀行との連携について毎年のセミナー参加やりそな総合研究所の川田憲治理事長の講演を 4 年生対象に実施（21 年度）など継続的な取り組みがなされている点は評価できるが、全体として活動は不活発であったと思われる。
 - （課題 2）埼玉県西部地域雇用協議会の活動は、今後も充実を図る。平成 19(2007)年度は 2 回の合同企業説明会を企画している。
 - （評価 2）埼玉県西部地域雇用促進協議会には継続的に参加しており評価できる。また、この協議会の主催で埼玉県西部地域企業の雇用確保と地域大学生の就職促進を目的とした「埼玉県西部地域企業合同説明会」が年 2 回開催されている。本学は平成 22（2010）年度第 2 回目の幹事校を努め、合同説明会の開催に寄与した。
 - （課題 3）インターンシップ先企業との関係は良好である。これを一步押し進め、インターンシップから就職への結びつきを強化するなどの一層の関係強化を進める。
 - （評価 3）インターンシップ先との良好な関係は継続されている。東京国際映画祭へ運営スタッフとして参加する新しい試みが始まり、また新規実習先を拡大してきており、産学連携の立場から見て評価できる。インターンシップ先への就職例はないが、学生に就業体験を与える取組としての価値は変わらない。
 - （課題 4）彩の国大学コンソーシアムは、今後利用学生をいかに増やしていくかが課題と言える。そのために各大学の広報活動の充実と大学間での連絡を密にする必要がある。また本学への受講生を増やすため、今後とも魅力的なカリキュラム構成を押し進める。
 - （評価 4）コンソーシアムの事務職研修会も数を重ね、参加大学間の連携は深まってきている。しかし単位互換生の受け入れ、送り出しともに減少傾向であり、検討を要する。
 - （課題 5）海外留学の充実は引き続き大きな課題である。平成 19(2007)年度に締結されたハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジとの協定に基づく学生派遣を実現し、継続的な派遣を目指す。
 - （評価 5）平成 21 年度に派遣が実現し、実質的な協定となったことは評価できる。今後とも継続的な派遣をすることが求められる。

(3) 10-2の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 文部科学省補助事業「就業力育成支援事業」では産学連携による取り組みが予定されている。
- ・ 「サービス・イノベーション人材育成推進プログラム」に基づき、今後とも学内でのケースメソッド教授法が展開される。良好な関係を維持するとともに、企業や一般への発信を行う
- ・ 「サービス・ラーニング」で実施されている協調型学習の授業は、企業や団体との連携が充実度の鍵となる。平成 22（2010）年度から実施された新規取組の継続とともに、協力企業・団体のより一層の拡充を目指す。
- ・ 海外研修（クイーンズランド大学）・海外留学（ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ）は、参加学生に対する支援体制の強化が課題と言える。海外渡航に不安を感じる学生へのサポートの充実を図る。
- ・ 地元金融機関との産学連携については、地域への成果還元という観点からもの取組が活性化されることが望ましい。新たな方策や、学内の協力体制等を検討する。

10-3 大学と地域との協力関係が構築されていること。

(1) 10-3の事実の説明(現状)

10-3-① 大学と地域社会との協力関係が構築されているか。

- ・ 平成 22（2010）年度には、狭山市の各種審議会（都市計画、振興計画、社会福祉）および狭山市行財政改革推進委員会、狭山市教育委員会の委員として本学教員が参加しているほか、外部評価委員等として周辺自治体に対する学識の提供を行っている。
- ・ 看護学部は平成 21（2009）年の開設年度から、埼玉県看護協会や近隣の病院における研究指導の取組、狭山市主催「青空サロン」における健康相談、「狭山市柏原地区老人クラブ連合会」との覚書に基づく「健康ひろば」活動、狭山消防署における講演などの取組を重ねている。平成 22（2010）年度には狭山市立小学校数校の学校保健委員会の依頼により、看護学部地域交流委員会がそれぞれの学校で保護者・教職員を対象に講演を行った。
- ・ 狭山市の依頼により「(仮称) 狭山元気大学健康づくりサポーター養成コース」の監修をサービス経営学部健康福祉マネジメント学科教員が務めたほか、全 25 回中 10 回の講義を両学部の教員が担当した。「アクティビティケアの実践」の回では看護学部学生と狭山元気大学受講者との協同で企画、発表の取組を行った。
- ・ 本学学園祭「ホスピタル」は毎年秋に開催している。学生組織である「学園祭実行委員会」が中心となって運営するが、地域住民へのサービスの提供は第 1 回開催以来受け継がれている。具体的には、住民の方々の協力を得たチャリティバザーや夜間の花火大会、特別講演会などが挙げられる。
- ・ 近隣住民の方々との「留学生交流会」を、本学オリーブ館（カフェテリア）を会場として留学生と地域交流委員会が協力し、定期的で開催している。中国、韓国からの留学生がそれぞれの言葉、文化、料理などをもとに近隣の方との交流を深める交流会で、21 人の参加があった。

- ・ 狭山市立入間川小学校での経済活動体験プログラム「狭山ビズキッズ」（キャリア教育文部科学大臣表彰）を、狭山商工会議所と対象の小学校に協力する形で平成 17（2005）年度から支援している。教員の指導のもと本学学生がサポーターとして小学生の店舗計画などの相談役や学習支援を行ってきた。平成 19（2007）年度からは「サービス・ラーニング」（体験・実習教育科目・選択 1 単位）の対象事業として、履修生が支援活動を継続している。
- ・ 隣接する入間市主催の「生涯学習フェスティバル」において、パネル展示発表を始めとする地域活性化のためのイベントに積極的に参加している。
- ・ 学生によるボランティア活動として、「ハンドベル演奏」を福祉施設などで実施している。また 12 月には狭山市民会館において、学園全体でクリスマスコンサートと称し、盲導犬普及のためのチャリティーコンサートを開催している。
- ・ 平成 19(2007)年から狭山青年会議所主催「むさし 100km 徒歩の旅」の参加小学生をサポートするボランティア活動が「サービス・ラーニング」受講生により行われている。近年は開催日程が本学前期試験期間と重なるため中断している。
- ・ 埼玉県赤十字血液センターに協力し、年に 2 回学生の献血活動が行われている。
- ・ 狭山市社会福祉協議会において、看護学部生ボランティアによるハンドベル演奏会が催された。
- ・ 平成 22（2010）年度には、狭山市日中友好協会と本学中国人留学生との意見交換会が実施された。

（2）10-3の自己評価

- ・ 前回自己点検評価の際に「改善・向上方策」として表明した諸点に即して述べる。
 （課題 1）「サービス経営学」の見地より、まちづくりへの積極的な支援を行っていく。
 魅力あるまちづくりの一助となれるよう地域住民の方との意見交換なども進めていく。
- （評価 1）狭山市の各種審議会・委員会への関わりを通じ教員の有する学識をまちづくりに生かす取り組みが行われており、また両学部ともに地域交流委員会が積極的に地域貢献の機会を設けており、評価できる。また「狭山元気大学」への協力により、狭山市との連携は一層密接なものとなった。
- （課題 2）現行の活動内容の見直しを図るとともに、さらにボランティア活動への積極的参加などを促し、より地域の中での本学の存在価値を高める努力を続ける。
- （評価 2）ハンドベルの活動や看護学部開講科目「人間と音楽」受講生、サービス経営学部開講科目「サービス・ラーニング（社会福祉）」の受講生などによるボランティア活動が組織的に行われるようになったことは評価できる。
- （課題 3）今後大学施設の開放も検討していく必要はあるが、中学、高等学校が同じ敷地内にあることも鑑み、優先順位をつけて取り組む必要がある。
- （評価 3）前回自己評価の時と比べ、看護学部ができて 8 号館校舎やオーリーブ館が新設されたことに伴い、学外者受入の機会が飛躍的に増加した。今後とも、中学・高校・大学の生徒学生の安全との両立に最大限の配慮をしつつ取り組みを重ねることが望まれる。

（３）１０－３の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 地域と連携した取組への学生の参加は、教育機関による地域貢献活動の大きな特徴である。学生参加の実績を伸ばしている福祉や看護の分野に加えて、地域経済の活性化や地域振興など、サービス経営学部が得意とする観光・経営の分野においても地域貢献活動へ学生が参加する方法を検討する。
- ・ 地元の狭山市との連携は、本学の地域貢献活動において重要な位置を占めるものである。新規案件への積極的な対応等、一層の連携強化に努める。

【基準１０の自己評価】

- ・ 前回自己点検評価の際に「改善・向上方策」として表明した諸点に即して述べる。
 （課題１）地域への施設開放をいかに進めるかは重要な課題である。ハード・ソフト面の充実を図り、一層の施設開放を進めるべく検討を重ねる。
 （評価１）狭山市および近隣高齢者団体からの施設利用依頼が増加していることから、前回評価の際の課題は改善傾向にあるといえる。両学部の教育活動との兼ね合いを意識しながら、今後とも継続的に地域の要請に応じることが望ましい。
- （課題２）公開講座等を通じて、「サービス経営学」の研究成果をより社会に還元する体制を整える。国内外の大学間連携や産学連携を進めてきたが、研究成果を発信することを通じて一層の充実を図ることを課題とする。
 （評価２）サービス経営学部、看護学部双方の地域交流委員会において発信活動が増加していることは評価できるが、現状は依頼に応じる形での発信が多く大学が主体となって発信している情報の割合はまだ低いと言える。今後も継続して研究成果の発信を課題としたい。
- （課題３）生涯教育の受け皿となるべく、地域の学習ニーズを把握する取り組みを行う。
 （評価３）地域の学習ニーズを把握する取り組みとして公開講座ごとに来場者へのアンケートが行われたが、より広い範囲のニーズを探る取り組みは行われなかった。今後とも継続して課題とすべきものと考えられる。

【基準１０の改善・向上方策（将来計画）】

- ・ 文部科学省補助事業「サービス・イノベーション人材育成推進プログラム」の成果である「ケース教材」の公表を行う。
- ・ 本学はサービス経営学部と看護学部それぞれに地域交流委員会が組織され、学部の専門性を活かした取組を実施している。地域の要請に対し一段と効果的な対応を図れるよう、両学部の地域交流委員会における情報の共有化や連携を促進する方策を検討する。
- ・ 地域の課題やニーズの把握には、継続して努力が求められる。意見交換会等、地域の要望を汲み取る取組の実施を図る。